

花 7月～8月	ユリ科	
ウバユリ		
<p>淡褐色の斑点が入った緑色の花が咲く</p> <p>山地の林床に生え、草丈は50cm～1m。葉は茎の下部に数枚つき、卵状の心形で、葉身の長さは15～25cm。葉脈は单子葉植物には珍しい網状脈となる。</p> <p>葉の先に緑白色の花を横向きに数個総状につける。一見、テッポウユリの花を思わせるが、花被片の先はあまり開かず、内側に紫褐色の斑点がある。花は夕方に咲き始め、強い香りを放つ。しばしば花期に葉が枯れることがある。</p>		
花 7月～8月	アヤメ科	
ヒメヒオウズイセン		
<p>ヨーロッパで交配されたといわれる園芸植物で、明治中期に渡米し、暖かい地方で帰化。葉は2列に互生し、直径2.5～3cmの朱赤色の花を下から順に咲かせる。モントブレチアという別名で呼ばれることも多い。</p>		
花 7月～8月	ユリ科	
ヤブカンゾウ		
<p>雄しべが花弁化して、美しい八重の花を咲かせる</p> <p>ノカンゾウ同様、人里近い道ばたや土手、野原に生えるが、特に人家の近くや川の堤防などに多い。草丈は70cm～1m、葉は長さ50～90cm、幅2～4cmと、ノカンゾウよりも全体的に大きい。</p> <p>花は燈色で、直径10cmほど。雄しべの全部または一部が花弁化して花のなかに雑然とつく形の八重咲きとなる。三倍体でタネは実らず、球根によって殖える。</p> <p>本種は昔、観賞用や食用として中国から導入したものが野生化して全国に広がったものと言われている</p>		